



ちょう かん ず 鳥 瞰 図

— 翔んでみた世界 —



空高くから街を、山を見下ろしてみる。

そんな、鳥になったような気分が味わえるのが「鳥瞰図」です。

地図上の世界を分かりやすく描くだけにとどまらず、絵師たちの芸術の域にまで達した鳥瞰図に、山の稜線一筋まで描かれた山岳鳥瞰図…。

見慣れた地上世界から高く高く翔んで、世界を見渡す旅をしてみませんか？

今回は、鳥瞰図の歴史とともに、それを描いてきたさまざまな絵師と、描かれた鳥瞰図の種類について資料を集めてみました。



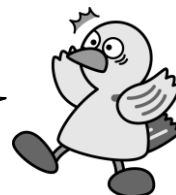
1 鳥瞰図とは

鳥瞰図（ちょうかんず）とは、上空から見おろしたように描かれた図のことで、「俯瞰図（ふかんず）」ともいわれます。空を飛んでいる鳥の眼から見たかのようなので「鳥瞰図」（bird's-eye view）というようです。

古くは、ヨーロッパの都市鳥瞰図や日本の国絵図から、今日では観光の案内図まで、さまざまなものがあります。

（1）鳥瞰図とはこんなものです

熊谷駅に「熊谷市鳥瞰図」が展示してあるのをご存じですか？



上越新幹線開通による熊谷駅改装を記念して制作されました。原画は吉田初三郎によるものです。昭和11年に描かれたもので、戦災で焼失する前の熊谷市の様子をうかがい知ることができます。

この鳥瞰図と市販されている都市地図を比べてみましょう。都市地図ではわからない建物の高さや熊谷寺などの名所の場所を知ることができます。

（資料番号：1、2、3）

(2) 歴史的な鳥瞰図

① ヤーコポ・デ・バルバリ (Jacopo de' Barbari)

「ヴェネツィア鳥瞰図」(Veduta di Venezia) (1500 年頃)

6 枚の版木から摺った 6 または 12 枚の木版画を上下に 3 あるいは 6 枚ずつ横につないだ 139 × 287 センチメートルの巨大な鳥瞰図です。地図の中央上部にいるのは、ローマ神話の商業神メルクリウス (英語名: マーキュリー) です。雲の上のメルクリウスの視点から描かれたヴェネツィアの地図で、前川誠郎氏によれば、画家たちが手分けして市中の各地区の鐘楼や屋上テラスなどに登ってサン・ジョルジョ・マッジョーレ聖堂から市街を展望する方角 (北西) の景観を写生したと思われ、その高さはせいぜい 70 ~ 80 メートルほどだったのではないかと思います。スケッチや図面のすべてを集め、遠近法的処理をほどこして下絵を仕上げたのがヤーコポ・デ・バルバリです。



ヤーコポ・デ・バルバリは、ヴェネツィアの画家で、1440 年生まれ 1516 年没とされていますが、詳しいことは分からないとしている文献もあります。『旅を糧とする芸術家』(資料番号 5) に「さまよえるヤーコポ・デ・バルバリ」(秋山聰) が収録されていて、ヤーコポ・デ・バルバリの画家としての活動の一端を知ることができます。

(資料番号: 4、5)

② レオナルド・ダ・ヴィンチ (Leonardo da Vinci)

「鳥瞰による地図」(キアーナ溪谷) (La Va di Chiana) (1502 頃)



レオナルド・ダ・ヴィンチが 50 歳のとき、チェーザレ・ボルジアに仕えていたときに描かれた地図。トスカーナ地方中央の広い地域を 1 枚の地図に収めたもので、軍事戦略的な用途のために作成されたのではないかとされています。地理的に正確であることよりも、全体を把握することを優先させています。空から眺めたかのような地図…飛行機的设计にも力をそそぎ、空を飛ぶことを夢見たダ・ヴィンチも鳥瞰図を描いていたのでした。

※レオナルド・ダ・ヴィンチ (1452-1519)

(資料番号: 6)

③ 「うきゑ京中一目細見之図」(菊屋安兵衛版 1769 年頃)

菊屋安兵衛は、江戸時代に京都で版元 (昔の出版社) を営んでいた人物です。浮絵版画を多数出版していました。

この「うきゑ京中一目細見之図」は、「京都」という都市の全体を「一目」で見渡す「細見図」であることによって未来における「都市鳥瞰図」の先駆となった (岸文和 資料番号 7) とされています。京都の町並みが鮮やかな色とともに立体的に描かれています。

(資料番号: 7)

④ 鋏形恵斎「江戸名所之絵」(1803 年頃)

鋏形恵斎 (くわがた けいさい) は、江戸時代 (明和元 (1764) 年 ~ 文政 7 (1824) 年) を生きた絵師です。江戸浜町竈河岸 (へつついがし: 現在の日本橋人形町) で生まれ、幼

いころから絵を好んでいたそうです。北尾重政の門人となり、浮世絵師として活躍した後、寛政 6 (1794) 年に津山藩 (岡山県) 松平家のお抱え絵師となりました。この「江戸名所之絵」は「江戸一覧図」とも呼ばれ、富士山を奥に、秩父の山から江戸の町並み、隅田川を俯瞰して描いている鳥瞰図です。今日の東京と比べてなんと緑の多いことでしょう。およそ 200 年前の江戸の町に思いをはせることができます。

(資料番号 : 8、9)

※福岡大学図書館のホームページで鉄形恵斎の作品を見ることができます。

<http://www.lib.fukuoka-u.ac.jp/e-library/tenji/wabi/wabi-html/kei/kei-top.html>

(2011/05/23 最終確認)

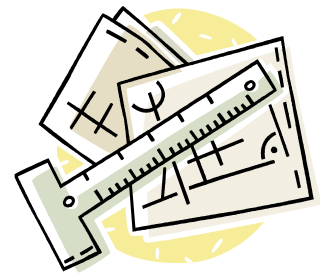
(3) 鳥瞰図の描き方 ～資料紹介～

自分でも鳥瞰図を描いてみたい!と思ったときに…

- ・石原正「誰にでも出来るカンタンなアクソメ式鳥瞰図の描き方」
『鵜(ウ)の目、俺(タカ)の目』石原正／著 東方出版 1993)

「アクソメ式」の「アクソメ」とは「アクソノメトリック投影図または軸測投影図と言われ、平面図をただ高さ分だけ持ち上げて描く、素人にも簡単に出来る作図法です。」(上記図書より)。石原正氏 (1937-) は鳥瞰図絵師として活躍していて、『鵜の目、俺の目』は、石原氏の鳥瞰図絵師としての自伝です。大阪万博の会場図を描いた際のこぼれ話などを「聞く」ことができます。(「3 いろいろな鳥瞰図」でご紹介する『日本万国博覧会場パノラマガイドブック』

(資料番号 39) と氏の万博会場図 (p118) を比べてみてもおもしろいかもしれません。)



- ・藤本一美「鳥瞰図・展望図の技法」(『地理 47 (6)』古今書院 2002.6)

鳥瞰図絵師として、また鳥瞰図の研究者としても活躍している藤本一美氏 (埼玉県出身) による鳥瞰図の技法の紹介です。「だれにでも挑戦できる描画法」として、地形図や写真を基に作成する方法が紹介されています。

- ・『建築とデザインのための図形科学』山田由紀子／著 培風館 1997

投影法についての解説に鳥瞰図の描き方について触れています。図形科学の中での鳥瞰図にふれることができます。

(資料番号 : 10、11、12)

～この他に鳥瞰図について知るための資料紹介～



- ・『古地図と風景』矢守一彦／著 朝日新聞社 1992

「1 地図と風景画の狭間」(「鳥瞰図史考」収録) に鳥瞰図の歴史についての記述があります。

- ・『近代日本の視覚的経験』中西僚太郎、関戸明子／編 ナカニシヤ出版 2008

近代の地図や画像資料に関する論文集。特に第 3 章から第 6 章に鳥瞰図に関する論文が収録されています。

- ・『別冊太陽 「パノラマ地図の世界」』平凡社 2003

「鳥瞰図とは何か?」(藤本一美／著) では、近代から現代の鳥瞰図についての概説を読むことができます。

「現代の鳥瞰図絵師たちとその作品」には、友利宇景や石原正らの作品が掲載されています。また、H.C. ベランの特集記事もあります。

- ・大久保淳一「広重と江戸鳥瞰図」(『国立歴史民俗博物館研究報告 109』
国立歴史民俗博物館 2004)

広重のみならず江戸時代の鳥瞰図について概説されています。
(資料番号: 13、14、15、16)



2 鳥瞰図絵師たち

(1) ^{よしだはつさぶろう}吉田初三郎 (1884-1955)

「大正の広重」と呼ばれた鳥瞰図絵師。大正から昭和の時代にかけて活躍しました。友禅図案の工員として奉公した後、洋画家を目指して関西美術院長の鹿子木孟郎(かのこぎたけしろう)に入門、パリ帰りの鹿子木から商業美術を勧められ、鳥瞰図を描き始めたとされています。大正2年に発行した『京阪電車御案内』が、当時の皇太子(昭和天皇)の眼にとまり、「これは奇麗で解り易い、東京に持ち帰って学友に頒ちたい」というお褒めの言葉を受けました。また、大正10年に鉄道省の『鉄道旅行案内』の挿絵(鳥瞰図)と装幀を担当したことにより、初三郎式鳥瞰図が世間に認められ、作品の依頼が増えたそうです。その後も、全国の鳥瞰図を描き、鳥瞰図の観光地図だけでも1000種以上を残しています。

(資料番号: 17、20、21、22、23、24、25、26)

『鉄道旅行案内』鉄道省 1921、1924 (資料番号: 18、19)

大正10年版と大正13年版。この2冊には、次のようなエピソードがあります。

「初三郎の刊行書籍を挙げると、まず、大正10年版『鉄道旅行案内』(鉄道省編、博文館刊)がある。初三郎画109点挿画中、98点が鳥瞰図で、初三郎画よしだの落款は最後の「根室線沿線図絵」のみで、作画者の説明すらない。落款の消しめ跡の散見(多数)や裏表紙の見返しの川渡し人足の背中の法被に印した「初」のサインに、初三郎の口惜しさと鉄道省の権威のすごさを感じずにはおれない。つぎの大正13年版(増補修訂版)で、「挿画は吉田初三郎氏に委嘱」した旨の説明がやっと記され、大正15年版になると挿画が131点に増える。ここに至って、大正期の画風が思う存分伝えられている。」

(資料番号: 27『鳥瞰図絵師の眼』から「大正広重」吉田初三郎の世界 藤本一美)

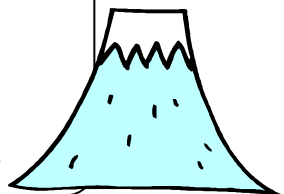
色刷りの鳥瞰図が多数収録されていて、当時としては斬新な旅行案内でありました。初三郎の人气が決定的なものとなるきっかけとなった書籍ですが、初めは、「初三郎」の名を入れることができなかったのですね。

県立熊谷図書館ではこの2冊をともに所蔵しておりました。

初三郎と富士山

初三郎の鳥瞰図にたびたび現れ、驚かされるもの、それが「富士山」。
関東甲信越地方の図は言うまでもなく、はるか台湾の「台北市鳥瞰図」
(1935年)にも遠くに富士山の姿が…。

もちろん、「熊谷市鳥瞰図」にも、はっきりと富士山の姿が見られます。



(2) ^{ごうんていさだひで}五雲亭貞秀 (1807-1873)

歌川貞秀。五雲亭は雅号、玉蘭斎貞秀などの号も使用していました。江戸時代末期から明治初めの浮世絵師で、細密な鳥瞰式の地図を多数残しています。江戸に住んでいたようですが、横浜の開港とともに一時期横浜にも住んでいたのか、「御開港横浜之全図」(万延元年(1860)頃)といった横浜を紹介する絵図が知られています。

(資料番号: 28、29、30)

(3) H. C. ベラン (1915-1999)

ハインリッヒ・ベラン (Heinrich C. Berann)

オーストリアのインスブルック生まれ。山岳風景を中心に絵具で丹念に描くパノラマ画家として活躍しました。1992年には、千葉県佐原市と長野県白馬村の依頼でそれぞれの全域図を描くために日本にも来ています。山岳パノラマ画集を展示します。

(資料番号: 31、15)

(4) ^{いおざわともや}五百沢智也 (1933-)

山形市出身。鳥瞰図作家としてだけでなく、氷河研究家、山岳研究家としても知られています。日本だけでなく、ヒマラヤなど海外の山の鳥瞰図も描いています。

雑誌『地理 1998年4月号』に「私のスケッチ」という文章を書いていて、地形図や鳥瞰図を描いた際のこぼれ話を「聞く」ことができます。

(資料番号: 32、33、34、37)

(5) ^{ともりうけい}友利宇景 (1947-)

埼玉県出身。鳥瞰図をはじめとするデザイン創作活動を行っています。主な作品に、富士山鳥瞰図、八ヶ岳清里大パノラマ、荒川大パノラマ等があります。

(資料番号: 35、15、42)



3 いろいろな鳥瞰図

(1) 建築パース

『透明水彩画で描く建築パース』ハヤシタデオ／著 グラフィック社 1991

「パース」とは「パースペクティブ (perspective)」の略で、遠近法を使った図のこと。また、その描き方で描いた建物の完成予想図のことです。外観図や内観図とともに鳥瞰図も描かれています。建物がその場所に置かれたときに、どのような印象を与えるのか、イメージが広がります。

(資料番号: 36)

(2) 山岳鳥瞰図

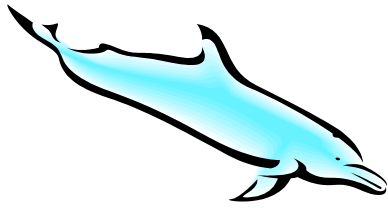
『鳥瞰図譜-日本アルプス-』五百沢智也／著 講談社 1979

山の鳥瞰図です。先にご紹介した五百沢智也氏やH.C. ベラン氏などが描いています。ここでは五百沢智也氏が描いた山の鳥瞰図をご紹介します。山の形どおりに描かれ、名前や標高の記されているものもあり、地形図とはまた違った楽しみ方ができます。

(資料番号: 37)

(3) 海底俯瞰図

『日本近海海底地形誌-海底俯瞰図集-』茂木昭夫／著 東京大学出版会 1977



海底を俯瞰してみた「鳥瞰図」といってよいでしょうか。アメリカのコロンビア大学ラモン・ヘーゼン地質研究所の Heezen 博士が、秘書の Tharp 氏とともに大西洋の海底の地形図「Physiographic diagram of the North Atlantic Ocean」を 1959 年に発表しました。大西洋の海底の詳細な姿が立体的に描かれていたものようです。この地形図は、各大洋ごとにまとめられているので縮尺が小さくなり、日本近海は、「きわめて概括的な表現にとどまっている」ものでした。茂木昭夫氏は、同じ手法で日本近海のみを日本の資料で大きな縮尺で詳細に表現しようと思い立ち、『日本近海海底地形誌』を作成しました。

海底の様子が立体的に描かれています。空からはうかがい知ることができませんが、水の中に住む鳥や魚ならばこのような景色を見ることができるでしょうか。

(資料番号：38)

(4) ガイドマップ

『日本万国博覧会場パノラマガイドブック』ブルーガイド／編 実業之日本社 1970

大阪府吹田市で 1970 年に開かれた日本万国博覧会の「パノラマガイドマップ」があります。空から眺めたように描かれています。建物の色や形がわかるので、お目当ての会場にも迷わずに向かうことができたのではないのでしょうか。ちなみに裏面は「万国博催しものカレンダー」となっています。

日本万国博覧会は、三波春夫がテーマ曲「世界の国からこんにちは」を歌ったことや、岡本太郎が「太陽の塔」を会場に制作したことでも知られています。日本で初めて開催された国際博覧会です。

(資料番号：39)



4 各地の鳥瞰図 ～資料紹介～

(1) 北海道

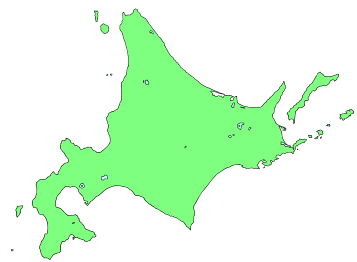
平井純子「戦前のガイドマップからみたオホーツク地域
―鳥瞰図と案内文の分析から―」

(『駿河台大学論叢 40』駿河台大学教養文化研究所 2010)

昭和 11 (1936) 年 6 月に発行されたガイドマップ「北見」の中の鳥瞰図「網走支庁大観」に表現された内容と案内文を分析することで、戦前におけるオホーツク地域について考察している論文です。吉田初三郎の描いた「北海道鳥瞰図」との比較もあります。

(※吉田初三郎の「北海道鳥瞰図」は『別冊太陽 吉田初三郎のパノラマ地図』p16 に掲載されています。)

(資料番号：40、22)



(2) 東北

須賀正美「初三郎が描いた宮城・仙台の鳥瞰図」

(『地図中心 433』日本地図センター 2008.10)

昭和 8 (1933) 年に宮城県観光協会の依頼によって作製された「宮城県鳥瞰図」などの鳥瞰図原画を紹介した論文です。「宮城県鳥瞰図」(部分)や「志津川町鳥瞰図」(部分)、「塩釜市

鳥瞰図」、「女川港鳥瞰図」、「国鉄東北支社管内鳥瞰図」等のカラー図版を見ることができます。
(資料番号：41)

(3) 関東・東海

・『秩父』UKEI TOMORI／画 ちちぶ工房 [1998]

埼玉県出身の友利宇景（ともり うけい）氏による秩父の鳥瞰図です。東武東上線「鉢形」駅から北東に広がる秩父の山々や町並みが、写真のように鮮やかに描かれています。画面の上方には富士山の姿も。

・藤本一美「鳥瞰図絵師 峯、吉田、金子、松井の千葉県内鳥瞰図作品比較年表」

（『鳥瞰図絵師・峯暁雲（峰庫治）著作略年譜』藤本一美 1995）

峯暁雲は佐賀県生まれで晩年は千葉県内に住んでいました。明治20年に生まれ昭和50年に亡くなっています。同時代に活躍した吉田初三郎や金子常光、松井天山が描いた千葉県内の鳥瞰図と比較した年表が収録されています。

・『絵葉書と鳥瞰図で見る日本の温泉 明治・大正・昭和前期 東日本篇』

小暮金太夫、中島松樹／編 国書刊行会 1992

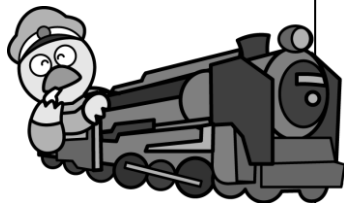
絵葉書や鳥瞰図に描かれた日本の温泉地を紹介しています。明治～昭和前期までの温泉地の写真も掲載されていて、ゆったりとお湯につかっている人々の姿から日頃の疲れを忘れることもできそうです。

「熱海温泉名所鳥瞰図」（常光画 昭和10（1935）年12月）、

「伊東温泉案内」（蘆田厚編 昭和2（1927）年1月）も掲載。

常光は金子常光、吉田初三郎の弟子であった人物です。

(資料番号：42、43、44)



鳥瞰図で描かれたふるさと埼玉

埼玉県でも、各地が鳥瞰図で描かれました。

前述した熊谷市、秩父市のほか、

「大宮鳥瞰図」（吉田初三郎 1934年）、「武州松山附近名所図絵」（金子常光 1926年）、「秩父絶勝三峯山名所図会」（吉田初三郎 1922年）、鉄道の沿線案内として「秩父鉄道沿線名所図絵」（吉田初三郎 1922年）、「東武鉄道沿線名所図絵」（吉田初三郎 1925年）などがあります。

(4) 近畿・中国

『絵葉書と鳥瞰図で見る日本の温泉 明治・大正・昭和前期 西日本篇』

小暮金太夫、中島松樹／編 国書刊行会 1992

上記図書の西日本篇です。

(資料番号：45)

(5) 九州

小野弘「鳥瞰図絵師・吉田初三郎と別府一父と慕った亀の井ホテル経営者・油屋熊八」

（『地図中心 450』日本地図センター 2010.3）

吉田初三郎による別府の鳥瞰図の紹介です。別府の亀の井ホテル経営者油屋熊八が吉田初三郎とともに飯田高原の開発に取り組んだことにもふれています。図版が掲載されている鳥瞰図は「日名子旅館御案内」（別府の名門旅館 大正15年）、「中外産業博覧会」（昭和3年に別府市制施行5周年記念で開かれたもの）です。

(資料番号：46)

(6) ローマ

『永遠のローマ物語―地図を旅する』 シャイエ／文・イラスト・写真 西村書店 2009



4世紀のローマをローマ属州の町ヘラクレイア出身の青年が、訪れたという設定のもとに書かれている読み物です。4世紀ローマの鳥瞰図や遺跡の写真等がふんだんに使われていて、眺めているだけでも楽しめます。

(資料番号：47)

より詳しく知りたい方へ

～県立図書館にある今回の展示資料～

※『書名』 著者名 発行者 出版年 所蔵館【県立図書館の請求記号】 帯出区分

※以下に掲載した資料は、県立熊谷図書館2階ロビーで8月28日まで展示中です。



1 鳥瞰図とは

- 1 『レトロでモダンな地図の旅―鳥瞰図の世界―』 狭山市立博物館 2001
熊谷【S290.38/㍿】貸出可
- 2 『ビジネス埼玉』 日地出版株式会社／編 日地出版 1988 熊谷【S290.36/㍿】貸出可
- 3 『熊谷市鳥瞰図―熊谷の玄関を飾る上越新幹線開通記念壁画』 吉田初三郎／原画 [熊谷市]
1982 浦和【S295.1/㍿】禁帯出
- 4 『日本の美術と世界の美術』 前川誠郎／著 中央公論美術出版 2006 久喜【704/㍿】貸出可
- 5 『旅を糧とする芸術家』 小佐野重利／編著 三元社 2006 久喜【702.8/㍿】貸出可
- 6 『万能の天使レオナルド・ダ・ヴィンチ』 アレッサンドラ・フレゴレント／著
ランダムハウス講談社 2007 久喜【702.37/㍿】貸出可
- 7 岸文和「菊屋版「うきゑ京中一目細見之図」について―はじめての「都市鳥瞰図」
(『国華 第1214号』) 国華社 1997 久喜【雑誌】禁帯出
- 8 ヘンリー・スミス「鳥瞰図の構造」(『朝日ジャーナル 29(20) 通巻1478』) 朝日新聞社 1987.5.8
熊谷【雑誌】禁帯出
- 9 『古地図への旅』 矢守一彦／著 朝日新聞社 1992 熊谷【291.01/㍿】貸出可
- 10 藤本一美「鳥瞰図・展望図の技法」(『地理 47(6) 通巻561号』) 古今書院 2002.6
熊谷【雑誌】禁帯出
- 11 『建築とデザインのための図形科学』 山田由紀子／著 培風館 1997 久喜【501.8/㍿】貸出可
- 12 『鴉の目、俺の目(ウノメタカノメ)』 石原正／著 東方出版 1993 久喜【727/㍿】貸出可
- 13 『古地図と風景』 矢守一彦／著 筑摩書房 1984 熊谷【291/㍿】貸出可
- 14 『近代日本の視覚的経験』 西僚太郎、関戸明子／編
ナカニシヤ出版 2008 熊谷【291.038/㍿】貸出可
- 15 『別冊太陽 69596(85) パノラマ地図の世界』 平凡社 2003 熊谷【雑誌】禁帯出
- 16 大久保純一「広重と江戸鳥瞰図」(『国立歴史民俗博物館研究報告 第109集』) 2004
熊谷【雑誌】禁帯出

2 鳥瞰図絵師たち

①吉田初三郎 (1884-1955)

- 17 『吉田初三郎の鳥瞰図を読む』堀田典裕／著 河出書房新社 2009 熊谷【291.038/ㇿ】貸出可
- 18 『鉄道旅行案内』鉄道省 1921 熊谷【R291.09/ㇿ】禁帯出保存
- 19 『鉄道旅行案内』鉄道省 1924 熊谷【R291.09/ㇿ】禁帯出保存
- 20 『美しき九州-「大正広重」吉田初三郎の世界』益田啓一郎／編 海鳥社 2009 久喜【721.9/ㇿ】貸出可
- 21 『全国鉄道旅行絵図』今尾恵介／解説 けやき出版 2011 浦和【686.21/ㇿ】貸出可
- 22 『別冊太陽 65956 (60) 吉田初三郎のパノラマ地図』平凡社 2002 熊谷【雑誌】禁帯出
- 23 「「大正の広重」発掘！」(『サライ 6 (19) 通巻 122 号』) 小学館 1994.10.6 熊谷【雑誌】禁帯出
- 24 益田啓一郎「鳥瞰図絵師が撮影した日本各地、昭和 20 年代の町並み」(『地図中心 通巻 401 号』) 日本地図センター 2006.2 熊谷【雑誌】禁帯出
- 25 佐藤達一朗「「大正広重」と呼ばれた男-吉田初三郎の鳥瞰図とその背景-」(『日本古書通信 64 (7) 通巻 840 号』) 日本古書通信社 1999.7.15 熊谷【雑誌】禁帯出
- 26 『埼玉県内の鳥瞰図・展望図について』藤本一美／著 藤本一美 [1996] 浦和【S290.38/ㇿ】禁帯出
- 27 『鳥瞰図絵師の眼』INAX 出版 2001 熊谷【291.038/ㇿ】貸出可

②五雲亭貞秀 (1807-1873)

- 28 『横浜浮世絵と空とぶ絵師五雲亭貞秀』神奈川県立歴史博物館／編 神奈川県立歴史博物館 1997 久喜【D721.83/ㇿ】貸出可
- 29 『地図と絵図の政治文化史』黒田日出男[ほか]／編 東京大学出版会 2001 久喜【448.9/ㇿ】貸出可
- 30 『神奈川県美術風土記 幕末明治初期篇』神奈川県立近代美術館／編 有隣堂 1970 久喜【702.1/Ka43】貸出可

③H. C. ベラン (1915-1999)

- 31 『パノラマ画集-ベランの世界-』H. C. ベラン／著 ブルーガイドセンター 1992 久喜【726.5/ㇿ】貸出可

④五百沢智也 (1933-)

- 32 『五百沢智也の世界』山形県生涯学習文化財団／編 山形県生涯学習文化財団 2008 久喜【D448.9/ㇿ】貸出可
- 33 五百沢智也「私のスケッチ」(『地理 43 (4) 通巻 509 号』) 古今書院 1998.4 熊谷【雑誌】禁帯出
- 34 地理編集部「五百沢智也山岳鳥瞰図の世界-千葉県立中央博物館春の展示「山の科学画」から-」(『地理 52 (4) 通巻 621 号』) 古今書院 2007.4 熊谷【雑誌】禁帯出

⑤友利宇景 (1947-)

- 35 カラーグラビア「友利宇景パノラマワールド」
インタビュー「知的創造社会へのメッセージ 友利宇景」
(『発明 96 (9)』) 発明協会 1999.9 久喜【雑誌】禁帯出

3 いろいろな鳥瞰図

- 36 『透明水彩画で描く建築パース-鳥瞰図、外観図、インテリア』 ハヤシスタジオ／著
グラフィック社 1991 久喜【D515.1/1】貸出可
- 37 『鳥瞰図譜-日本アルプス-』 五百沢智也／著 講談社 1979 久喜【D454.9/7】貸出可
- 38 『日本近海海底地形誌-海底俯瞰図集-』 茂木昭夫／著 東京大学出版会 1977 久喜
【D452.8/2】貸出可
- 39 『日本万国博覧会場パノラマガイドブック』 ブルーガイド／編 実業之日本社 1970 浦和
【606/J55】貸出可

4 各地の鳥瞰図

- 40 平井純子「戦前のガイドマップからみたオホーツク地域-鳥瞰図と案内文の分析から-」
(『駿河台大学論叢 第40号』) 駿河台大学教養文化研究所 2010 浦和【雑誌】貸出可
- 41 須賀正美「初三郎が描いた宮城・仙台の鳥瞰図」(『地図中心 通巻433号』)
日本地図センター 2008.1 熊谷【雑誌】禁帯出
- 42 『秩父』 UKEI TOMORI／画 ちちぶ工房 [1998] 熊谷【S294/77】貸出可
- 43 『鳥瞰図絵師・峯暁雲(峰庫治) 著作略年譜』 藤本一美／著 藤本一美 1995 浦和
【SA72/7】禁帯出
- 44 『絵葉書と鳥瞰図で見る日本の温泉 明治・大正・昭和前期 東日本篇』
小暮金太夫、中島松樹／編 国書刊行会 1992 熊谷【D291.09/18】貸出可
- 45 『絵葉書と鳥瞰図で見る日本の温泉 明治・大正・昭和前期 西日本篇』
小暮金太夫、中島松樹／編 国書刊行会 1992 熊谷【D291.09/18】貸出可
- 46 小野弘「鳥瞰図絵師・吉田初三郎と別府」(『地図中心 通巻450号』)
日本地図センター 2010.3 熊谷【雑誌】貸出可
- 47 『永遠の都ローマ物語』 シャイエ／文・イラスト・写真 西村書店 2009 熊谷
【232/11】貸出可
- 48 藤本一美「昭和前・中期の鳥瞰図にみる季節感」(『地図ニュース No.344』)
日本地図センター 2001.5 熊谷【雑誌】禁帯出

※刊行後2年を経過した雑誌は貸し出しができません。

2011年現在、2009年以前の雑誌は貸出不可です。

※上記以外にも、県立図書館では鳥瞰図に関する資料を所蔵しております。

お探しの資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

